

研究資金ワーキング・グループのヒアリングにおける主な意見・要望

平成19年3月
事務局とりまとめ

【1】若手向け競争的資金

若手向けの競争的資金を増やして欲しい。少額でも高い採択率で、チャンスを与えて欲しい

【2】間接経費

小型の研究課題も含めて、全ての制度で間接経費を措置して欲しい

【3】年度を越えた資金の確保

研究プロジェクト終了に伴うポストクの解雇など、研究者等の雇用が不安定である
一年あたりの額が少なくても構わないので、最低でも5年程度続けられる競争的資金を設けて欲しい

繰越明許の手続きが煩雑であり、少額でも同じ作業が必要とされる。また、申請しても承認されるとは限らない

【4】配分時期、研究期間

配分時期の遅れと早い報告書提出期限により十分な研究期間が確保できない。これも不正な繰越等の一因となる

厚生労働科学研究費補助金の配分時期が特に遅い

自治体から再委託を受けている事業は、精算払いが多く、配分時期が非常に遅い

【5】使途制限、ルールの不統一

各競争的資金等のルールの違い(旅費や学生の謝金など使用可能使途、費目間流用限度額、備品基準額等)により、事務・確認作業が複雑化し、現場の事務・研究者に混乱・仕事量増を強いている

例えば、科学研究費補助金と科学技術振興調整費や厚生労働科学研究費補助金などの使用ルールや手続きが異なるので、科学研究費補助金を中心にしたルールの共通化・簡素化を要望する

細かな経理が要求され、経理処理が複雑化・煩雑化し、事務量が増え、経理処理や物品管理について若手研究者にもしわ寄せが生じている

使途制限の厳しさが不正経理を招く一因となる

【6】研究設備備品

当初計画に対して研究費が満額配分されることは少なく、また、単年度会計主義のため、先端的機器・高額機器の導入が難しい

あるプロジェクトで購入した機器に若干の追加で他のプロジェクトにも活用できるのに、研究設備の目的外使用禁止のため、ほぼ同一の設備を新規購入せざるを得ない

競争的資金では汎用性のある備品等の購入が困難なため、競争的資金獲得額の増加により運営費交付金が圧迫されている

大型研究設備の更新が困難で、老朽化が進んでいる。競争的資金の中で整備・拡充のための新たな制度を設けて欲しい

【7】評価

研究費の申請書類等が日本語のみであり、外国人研究者が申請しにくいので、バイリンガル化を希望する

不採択理由が示されず、次回の申請や別の競争的資金の応募に活用できない

審査員の多様性を確保すべき(女性、若手、小規模大学、産業界など)

科学研究費補助金では、審査員1人当たりの件数が数十件以上で、諸外国と比べても多い

【8】重複・集中

採択率が低いので、次年度以降の研究費の確保のために、多数の研究費に応募し、結果的に同時に複数採択される人と、全く採択されない人が出ざるを得ない

米国と比較して主要国立大学に公的研究費が集まりすぎている

企業では、勤務は、時間管理から成果管理に移行しており、エフォート管理を要求されると非常に煩雑になる

【9】国立大学や国立試験研究機関の法人化の影響

運営費交付金の削減等により、中長期的研究やハイリスク・チャレンジングな研究が非常にやりにくくなった

運営費交付金の削減と教育経費優先で、教員の研究費配分額に大きなしわ寄せが生じている

外部資金への依存に伴う総研究費の増加により、必要な管理経費は増加し、相対的に運営費交付金が圧迫されている

定員や人件費の削減による事務人員減で、研究者への事務サポート機能が不十分になっている

主に研究機関、研究者、民間企業等の意見を整理した。